

ズボラで大胆な妹が俺に一言

「だって兄妹なんだしさっ！！裸、見せ合おうよっ！！」

妹との極限まで激しい濃厚セックスへ一直線！！！！

夏休みが近づき、俺が住んでいるのどかな田園地帯のど真ん中にあるレモン町は汗ばむ陽気が続いている。

俺は自分が通っている〇学校のすぐそばに住んでいて、先ほど妹が俺より30分ばかり遅く家に帰ってきたばかりだ。

ドタドタと忙しそうに廊下を走り階段を駆け上がる妹のミナハ。

きっと何か急く用事でもあるのだろう。

俺はリビングで昼飯に昨晚のカレーを温め直して食べていた。

「おいミナハ！！靴ちゃんと脱げよなあっ！！買ったばかりの俺の靴に先っぽが重なっちゃってるだろお！！」

昼飯を食べ終えトイレへ行く際、玄関の三和土(たたき)に無造作に脱ぎ捨てられた妹の靴を見て俺は二階に向けて大きな声量で声をかけた。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

声はしないが、“ガチャッ”とドアが開く音がした。

数秒間の沈黙を経て・・・

「んもうっ！分かったよお～、そんなに大声出さないでよね、ビックリしちゃうじゃんっ！」

妹の声。ワガママそうないつもの口調。

“ビックリしちゃうじゃん！？！？！”

！！！？？

いや！

いやいや！！

いやいやいや！！！！！！

どれだけ首を振っても足りないくらいにおかしいぞ
お！！

ビックリしたのはまさに！！まさしく！！！！絶対に俺
の方だからだ。

そして、きっとこの惑星の一人残らず全ての男たちがそ
れに同意するだろう。

なぜなら、妹のミナハが

“素っ裸”

で階段を下りてきたからだ。

「えっ！！！？ちょ、ちょっとお前っ！！」

まだ若造の俺の腰がまるで年寄りのように砕けそうにな
る。

「なあにいちいち驚いてるの？あたしがズボラなこと、

お兄ちゃん知ってるじゃない？」

目尻を下げ、弦の月目（つきめ）をして少しにやけ気味の含みのあるような笑顔で妹は上からこっちをまっすぐ見つめている。

確かに、粗忽（そこつ）にいつも脱ぎ捨てられた靴について言えば今回に限ったことではない。妹はずっとそういうズボラで大胆な性格だ。

俺も怒鳴り声を上げた手前引っ込みがつかず、

「し、知ってるって言ったって・・・」

だけど俺の言葉の焦点は当然のようにすぐさま妹の裸へ。

「だ、だけどお前！？そ、その格好何だよ！？？」

目を見開き、まだ階段の上部途中で突っ立ったままの妹に叫んだ。

薄暗いため妹の方からは見えないと分かっていたが、自分の顔の温度が上昇し、赤面していることが分かった。

「裸のこと？？なあーんだ、そんなことか

あ！！」

欠片の罪悪感も羞恥心もないような素振りで妹は続けた。

「あのね、あたし考えたの。あたしもお兄ちゃんもお互い○学生になって妙に恥ずかしがっちゃってさ、昔みたいに
お風呂も入らなくなったじゃん？？」

確かに・・・それは事実。だけどその言葉とミナハの格好があまりにミスマッチ。動揺しながら俺は答える。

「ええっ！あ、ああ、うん・・・ま、まあそうだけど」

すると、無垢でいたって真率な妹の眼差しからニコッと笑顔が漏れた。

「別にいいかなあって思ったんだっ！」

「えっ！！！？！？」

「だって兄妹なんだしさっ！！裸、見せ合おうよっ！！」

まるで何も言葉が出てこない俺。

”だって兄妹なんだし“
“裸、見せ合おうよっ”

！！！！！！！！！！

渦巻きうねる渦潮のような状態の心。

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

・・・・・・・・しかし・・・・・・・・俺は・・・・・・・・

兄。

曲がりなりにも妹にとってれっきとしたお兄ちゃんだ。
だから俺は“答え”を導き出す必要があった。

体験版はここまでです。

もし内容を気に入っていただけたら、

続きを製品版でお楽しみいただけますと

幸いです。